

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、鴨江圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和5年2月22日（水）9時40分から11時まで
参加者	委員：14人 事務局：10人 その他：1人（健康増進課：1人）
場 所	浜松市福祉交流センター 41 ギャラリー
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 協議内容</p> <p>①第2回 協議体会議の振り返り 生活支援コーディネーターよりパワーポイントを用いて第2回協議体会議の振り返りを行った。</p> <p>②「はままつし健幸クラブ」について 浜松市健康増進課 浜松市健康増進課より「はままつし健幸クラブ」について説明を行った。 ・浜松市では健康寿命が政令指定都市内1位（女性）を記録している。 ・現在20代～80代と幅広く利用がされている。個人での健康管理がメインだが、グループをつくり他の方の運動状況も見ることができるため安否確認としても利用がされている。</p> <p>③グループワーク</p> <p>○健康づくりを普及していくために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組めそうな活動 （個人での活動、小地域での活動、地区での活動、圏域での活動） ・もっと広めていきたい活動（シニアクラブ、ロコトレなど） ・どのような健康の情報を発信、普及したらいいか <p>【A グループ】</p> <p>健康づくりで心がけていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操は地域の人たちが参加し実施している ・サロンでは転ばないようにする体操などを実施する ・年齢も高くなると外出をしなくなる（気持ち的に・気力が衰える）。外出を促すような取り組みが必要 ・女性は外に出かけコミュニケーション取るのが上手だが、男性は苦手な方が多い。卓球やマージャンサロンなどは 男性が積極的に参加している様子が伺える ・食事に気を使っている。間食をしない、種類を多くする、ペースを決めて好きなものを食べる ・情報は新鮮な方が関心が高い ・認知症の徘徊や高齢者への犯罪、事故など課題を情報発信したい。自分に関係がないと思っけていても、何となくで抑止力になる ・見守りにLINEが使えるかもしれない <p>【B グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配な（要配慮）高齢者の把握が必要。外出したくてもできない人（手段・遠い人など）がいる。 ・ウォーキングの途中にちょっとしたお茶を飲むような場所がほしい。

- ・独居高齢者同士で声を掛け合ってラジオ体操をしている。
- ・体操もいいが、集まっておしゃべりや愚痴を話したい。
- ・行ける範囲の近い場所なら集まりやすい。
- ・小学校へ自治会とシニアクラブが訪問し、昔の遊びを教えている。
- ・町内の公園で草取りをしている。若い世代の人や子ども連れが参加してくれる。年で8回開催し、500人ほどが参加している。
- ・地区社協として3世代交流の輪投げやグラウンドゴルフは継続して行っている。
- ・自治会館の元々宿直室として使っていた部屋が現在は空いている。その部屋を活用し今後サロン等を開催していきたい。しかし机や椅子、改装をするためのお金がなく難しい。
- ・アプリを使える高齢者も増えてくると思うため、3世代交流のツールになるのではないか。
- ・回覧板を手渡しせず、安否確認になっていない。

【Cグループ】

- ・ウォーキングはそれぞれ心掛けている。(各委員より)
 - ・週に2回ゴルフの練習をしている。自治会活動等で忙しいが、週に2回は行くように心がけている。
 - ・賃貸マンションに住んでいる方は地域の集まりに行くことを遠慮している。
 - ・サロン活動や自治会の行事などに出ている人は、それ以外にも徒歩で買い物に行くなど活発に活動をしている人が多い。そのため、すでに地域活動をしている人以外の人への働きかけをどのようにしていくのがいいか？
 - ・目的が無いと動かない。特に男性が多い。
 - ・民生委員が訪問する際に、サロンなどの案内をするが、参加しない人は参加しない。
 - ・例えば子どもたちに昔の遊びを教えるなど、何か役割を与え、お願いする形で提案すると参加してくれるかもしれない。
 - ・男の人は人の役に立ちたい気持ちがある。そのためにその人のパーソナルな情報を聞き取り、その人のコミュニティを調べるのはどうか。
 - ・家事支援の協力員として、何かを依頼する
 - ・周りが心配していても、サロンや集まりに参加しない人がいる
- 元気で日頃から交流を持っている人なら問題ない。何か異変があれば周りから情報がある。
- 民生委員や地域の回覧板での情報提供は欠かさず行い、それでも断られるのなら仕方がない。ただ、断られるから情報提供をしないということではなく、必ず行うことでそれが見守りにもつながる。
- コロナによる制限も緩和されるため、地域の学校や保育園との交流を再開したい。
- ・昔の遊びを教える
 - ・学習支援などで子どもの相手や見守りをする
- などが考えられる

	<p>○自治会連合会や民生委員としても以前は入学式卒業式など学校行事に参加していたが、コロナ禍でなくなった。</p> <p>3. 事務連絡</p> <p>4. 閉会 鴨江圏域生活支援体制づくり協議体 会長</p>
今後の見通し等	グループワークでは活動参加をしていない方への生活支援について焦点が当たったため、今後はその理由について検討を行っていきたい。